

- タ イ ト ル : がん患者さんのためのチーム医療と地域連携の推進に向けた取り組み
阪神緩和薬物療法ネットワーク学術講演会 2022

アンケート【開催後】

- 日 時 : 2022年6月7日(火)18:30~20:00
- 会 場 : 会場とオンラインのハイブリッド開催(Zoomウェビナーを使用)
場所:市立芦屋病院(兵庫県芦屋市朝日ヶ丘町39-1)
- 対 象 : 医療・介護・福祉・行政従事者、患者さんの療養支援に関わっている方
- 参 加 費 : 無料

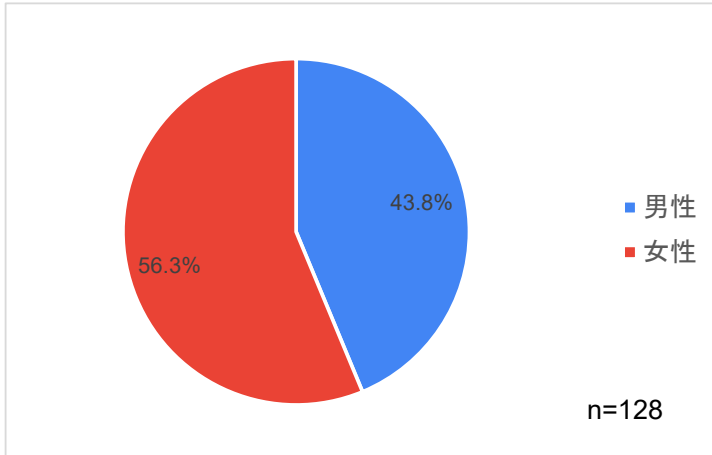
- 参加者数(講師含) : オンライン155名、会場10名
- アンケート回収数 : 129件

共 催 : 尼崎市薬剤師会
阪神緩和薬物療法ネットワーク

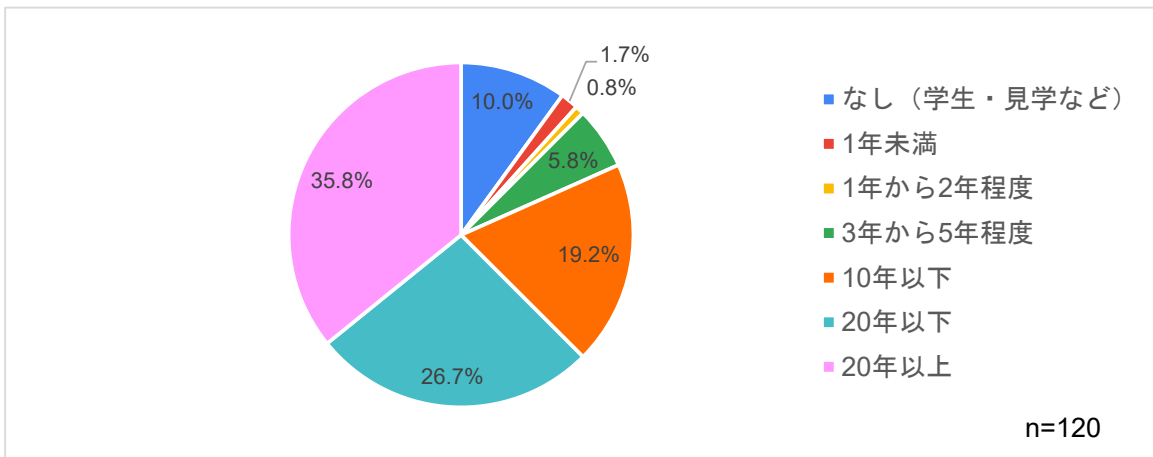
後 援 : 日本がんサポーターブケア学会

日本癌治療学会／ファイザーの医学教育助成金「がん患者のためのチーム医療・地域医療連携の推進に対する取り組み」の助成を受けて開催

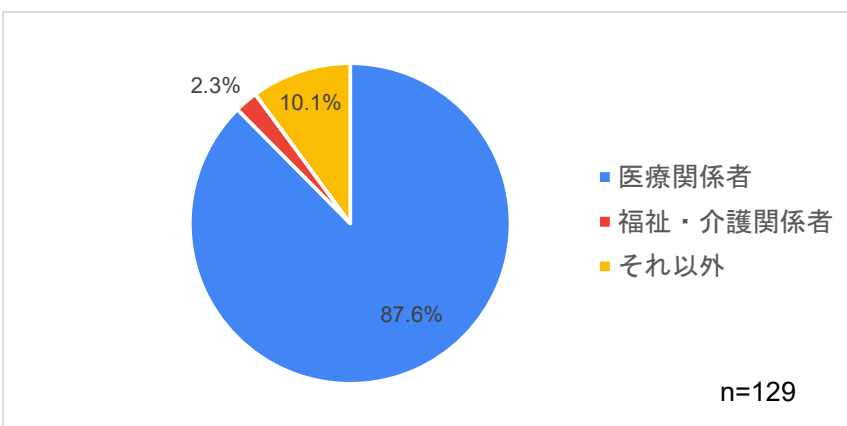
1. 性別を教えてください



2. 診療経験をお選びください



3. 職種をお聞かせください



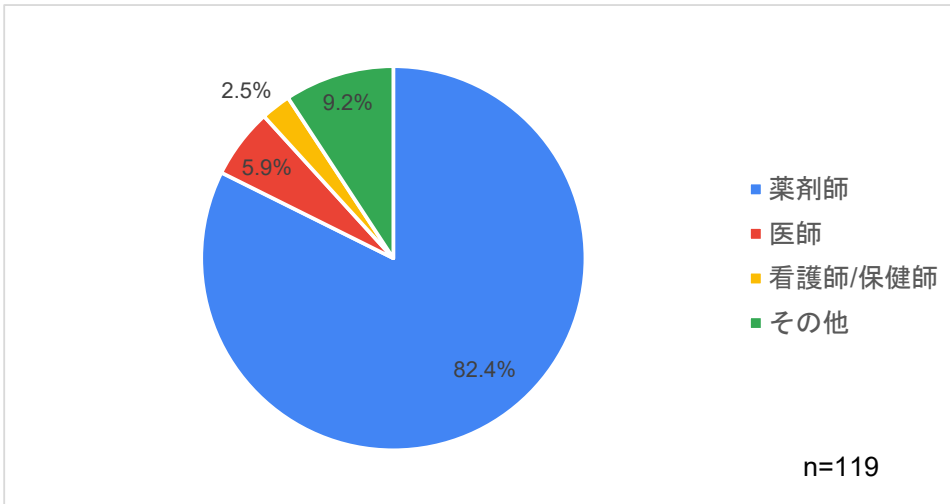
医療関係者	87.6%
福祉・介護関係者	2.3%

それ以外

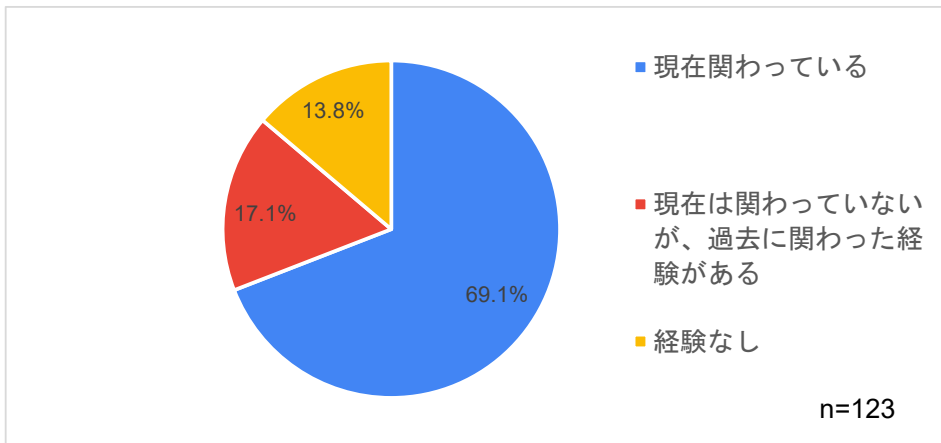
一般	1.6%
学生・大学院生	0.8%
研究者	2.3%
上記以外	5.4%

4. 上記で医療関係者および福祉・介護関係者にチェックされた方にお尋ねします

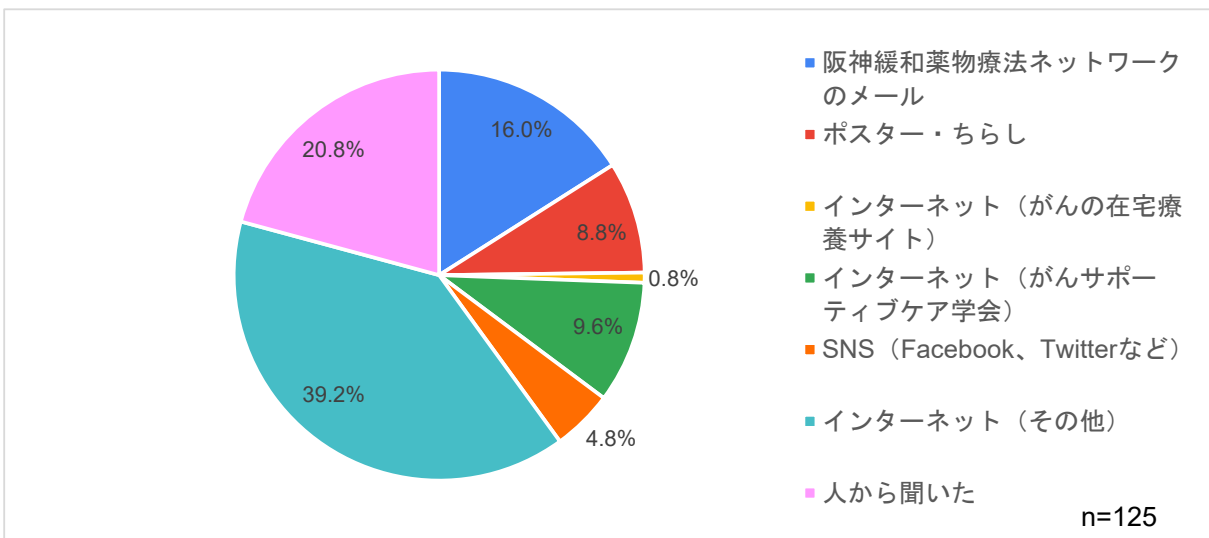
(1) 職種・専門分野をお聞かせください



5.(2) がん薬物療法に関わったご経験をお聞かせください



6. 研修会をどこで知りましたか



「人から聞いた」「その他」の具体的な内容

緩和認定を持つ同僚から聞いた

緩和医療薬学会の研修会案内

【ご参加の方すべて】本日の研修会のご感想、ご意見をお書きください。

参考になった、今後の参考にしたい …8件
勉強になった …6件
分かりやすかった …6件
多職種連携の必要性を感じた …4件
薬剤師としてできること、その責務を認識した …4件
興味深い内容だった …3件
日常業務ではなんとなくしか考えていない、広い視点での話が聴けてよかった。
地域連携を図るには、このような研修が大切だと思います。
地域にも個性があると思いますので、地域で対話できる機会をつくっていくことが大切だと感じました。どの機関や職種が主導してその役割を担うかが課題になるような気がします。
服薬指導時に非常にためになった。
説明がわかりやすく、「がんの在宅療養」サイトを知れてよかった。
兵庫県で生の講演に参加できて大変感銘を受けました。地方で訪問看護師をしておりますが、最先端のがん治療、緩和ケア、行政の施策支援等の情報を得る機会が少なく、地域連携や他職種連携等を実際にどのように行っていくのが発展途上の段階です。阪神地域での活動を少しでも参考にさせて頂くことができ刺激を受けました。
日々がん患者さんに関わりますが、改めて患者さんの気持ちに寄り添っていきたいと思いました。
数多くの職種だからこそ得られる新しい発見や知恵が得られると思います。
薬剤師の連携は当たり前と考えられますが地方（北陸）にいたときは薬剤師が少なく、意識せずとも連携できていました。阪神間にこのようなネットワークが存在することを今まで知らなかったなので今回情報を得られて良かったです。
地域の療養資源や社会支援制度などの情報を取り入れ多職種で連携を進めて、必要としている方の支援につなげていきたい。
まずは院内連携、そしてその先に病病連携、薬薬連携、その先に職種を越えた地域連携があると思います。同じ職種であっても、場所によって仕事の仕方が異なります。まずはお互いを知る、思いやることが第一歩ですね。患者さんや家族から相談があれば、なんとかしよう！と他部署と連絡を取ることで、その積み重ねで関係が広がっていきます。まずは、患者さん、家族に関心と興味を持つことが一番だと思います。これからの薬剤師のあり方、新しい薬局のあり方、薬局に限らず、相談できる場所を地域に作ることでできればいいと思いました。これまでの大学、DPC病院、薬局、地域連携病院全ての経験を生かして、新たな場が作れたら、それを広げて行けたらと思いました。ありがとうございました。
がん診療においては、症状マネジメントの他にACPや不安への対応など、様々な分野で治療前の段階からの医療、ケア介入が必要であることが改めて確認できました。そのために、患者さんが抱えておられる課題や、表面化している課題の背景について知る必要があると感じます。そのためには、多職種でこれまでがん医療の枠組みにない取り組みを考案する必要があると思います。
地域連携を行っていく上で自施設での治療内容、薬物療法を退院サマリー、お薬手帳などで次に繋げるよう引き続き取り組んでいきたいと改めて感じました。また療養場所によってどの様な情報が必要であるのか共有できればさらに発展していけるのかなと考えています。

まだ、入社して2ヶ月なので服薬指導はまだしていません。今の状態で患者さんにお薬出して来てともし言われてもがんの患者さんに副作用でてないかのチェックしかできずに終わってしまいそうです。何を話したら良いかわからない。がんの痛みの緩和の在宅患者さんでも一回訪問するだけで数万円麻薬に費用がかかっているみたいなのでお金の事も考えて医師に処方提案しないといけないのだなと思いつつながら他の薬剤師が訪問看護の人と電話しているのを聞いていました。

地域における多職種連携の大切さを改めて認識致しました。貴重なお話有難うございました。まだまだ現状は、職種におけるバトンタッチが十分でないので、このような啓発教育研修講演は大事だと思います。

患者さんに関わる方々とタイムリーに情報交換・意見交換ができれば、より患者さんに寄り添った対応ができると思った。調剤薬局ではトレーシングレポートを活用しながら、直接病院に伺いカルテを閲覧させていただきながらと思うが、時間的（訪問時間・自身が時間が取れるかなど）問題もあり難しい点もあるが、患者さんのためにできることは全てやれるようにしていきたい。何を切り口にして接していくのか考えていきたい。病院薬剤師と調剤薬局薬剤師の連携は重要である。

最後のディスカッションの中での「病院でも連携できたのだから地域でも」という言葉が印象に残りました。医師とコメディカル、医療者と介護職、まだまだ壁があるように思いますが、機会があれば積極的に連携に取り組みたいと感じました。

がん患者さんへ治療の真っ最中と言う投薬はほとんどしたことがなく、麻薬の処方箋来たらどうしよう、、、や、抗がん剤の治療の説明をどうしよう、、、といつも怯えているような感じです。ただ、今回の様な会に参加することによって、患者さんが求めているものは何かと考える機会が有ることで少し道筋が、立ったように思います。またこの会が開かれるようなら参加したいです。

終了直前に質問が出ていましたが、患者からみて、目の前の誰に声をかけてよいか分からないというのが、実感に見えます。

がん診療の地域連携と地域包括ケアは共通するところがあり、「地域で暮らしながら」を実現してゆくことが社会より求められており、それに薬剤師としてできることから対応してゆくことが大切だと再認識できました。ありがとうございました。

普段意識しない考えをお話いただき大変勉強になりました。年一回と言わず毎週聞きたいくらいでした。ありがとうございました。

他の職種が介入してくれるだろうではなく、薬剤師としてできることは何かと再度自問する機会となりました。

いつか自信をもって参加できるように、自分の分野（薬学）だけはしっかり答えられるように日々研鑽していきたいと痛感した。

多職種での連携がいかに大切であるか理解できた。

日本のがん医療の全体がわかり、チーム医療の重要性を再認識しました。

薬剤師の方の会なのでついていけるか心配でしたが、医療・多職種連携の話で薬剤師の方視点のお話を沢山聞けたので良かったです。

普段、自分のみの周りの人間としか交流がないので、こうした勉強会で140名もの参加者がいたことで、もっと他地域の先生方ともかかわりを持っていきたいと思えた。

【ご参加の方すべて】「がん患者さんのためのチーム医療と 地域連携の推進」に向けた
ご提案をお書きください、今後の企画の参考にさせていただきます。

事例を取り上げて欲しい、学ぶ機会が欲しい …7件
困っていることの情報共有 …3件
このような研修会、ワークショップを開催する …2件
緩和、鎮静について知りたい …2件
退院前カンファレンスを充実させる …2件
比較的院内のチーム医療は一般的になり、患者さんに認知されてると思います。 地域間のチーム医療、チームメンバーの構成ができる研修会や講演会をしていただきたいです。
各地域でのチーム医療を進める上で、オピニオンリーダーの在り方に関してディスカッションがあるといいのではないかと思います。
地域の多職種で連携する時、個人情報共有することに壁があると感じます。要配慮個人情報に留意して連携する手段や手法について、先事例を学ぶ機会があれば有意義だと感じました。
今は、病院でがんの薬物療法をされていて、自分の薬局には、異なる診療科のクリニックに通院されている方の処方箋を受診することが多い。病院の門前ではないので、直にがんの薬物療法のことを聞かせてもらうことはないが、副作用の皮膚症状について話されることなどあり。現在、薬業連携の研修会に参加しているが、地域に根差した薬剤師の知識の向上は不可欠である。
渡邊先生が言われたように、地域包括ケアを含めた医療、介護、地域支援、行政など多職種が膝を突き合わせて話し合える、議論できる場が設けられる事を希望します。また、参加させていただきたいと思います。
在宅療養へ移行する際に病院薬剤師と薬局薬剤師がどのような形で連携していくべきか、実例など交えて教えていただきたいです。
今日先生がおっしゃられたような、うまくいかなかった症例など題材にして検討会があればと思います。
病院：地域の中心となる基幹病院とその受け皿の地域包括支援病院からのリハビリ病院、療養病院各病院から連携クリニックや地域薬局、包括支援センター、介護施設へすでに関係のできている場のパイプを視える化し、太くしていくことで広がるのではないのでしょうか？お互いに、手を差し伸べて助け合える関係を実感できることこそが推進の一歩だと思います。
治療内容さえも、なかなかはっきりわからないのが現状です。まずはそこからなんとかなればと期待します。
患者自身から課題を発信、課題解決に向けた行動がとれるような枠組み、仕組みづくりが必要と感じます。例えば、小・中学からがん医療についての教育を充実させることがあると思います。将来的に自身が大人になった時、あるいは親などががん医療をうけることになったときの思考力、行動力につながるのではないかと考えます。
緩和ケアチームの薬剤師がどのように活動しているのか共有し院内連携、地域連携をさらに推進できる話し合いができれば幸いです。
当事者家族の立場からのフィードバックを心がけていきたいと思います。またそういったことができる場があるとありがたいです。本日はありがとうございました。
がん患者に関わる他の医療施設の医療従事者がどのような取り組みをされているのかや、現場で困った事を知りたい。

退院時カンファレンスなどを通じて、緩和ケアチームと薬局薬剤師や訪問看護師、在宅医など顔を見える関係を構築する。

高齢化により、がん拠点病院が関わる事もありますが、介護型病院、福祉施設などの関わりも大きくなってきています。特定の職種もですが、行政、福祉、訪問看護、医師会等の各分野に連携の大切さをPRして欲しいです。まだまだ縦社会です。

保険薬局の薬剤師が積極的に退院時共同指導へ参加する。

事例検討会を含め地域ごとの連携のグループワーク。

地域連携の推進は「病院の地域医療連携室」がキーとなるかと思います。

最近、かなり、薬薬連携も進んできましたが、より積極的な、同じ方向性で、患者さんが混乱したり、迷ったりしない、連携が図れると良いですね。

病院側、薬局側の連携で困っている点をそれぞれの立場で考え、悩みを解決できる場がほしい。

チーム医療や地域と患者さん・ご家族を紡いでいけるような役割が必要ではないかと感じます。

定期的に地域と情報交換が必要であることをこのコロナ禍となって改めて実感しました。

トレーシングレポートで必要な情報などあるといいなと思います。

本音ベースで、困っていること、不安なことといった課題を集めて整理する。

退院後の患者としていろいろ悩みはどこに誰に聞けばいいのかいまだにはっきりしないので充実させてほしい。

ウェビナーは気軽に参加できるので今後もWeb配信をお願いします。

高齢者の医療について連携を構築中で、参考になる部分がありました。高齢者のがん医療をどうするか、と言う企画はまさに今日の話から出てくるのではないかと思います。

このような研修会が定期的開催され開局薬剤師が垣根を感じさせない様な企画をして頂ければと思います。

実際の診療時のやり取りや投薬時のやり取りがどういった感じなのかを見たい。自分ががんの薬物医療の経験が少ないので、その現場の状況を見たいです。

社団法人日本癌治療学会 ネットワークシニアナビゲーターとの連携をお願い致します。

改めて今日参加して多職種連携の大切さを感じたので違う職種の勉強会に参加する事も大切だと感じた。

チーム医療と地域連携のメンバー、主人公は誰なのか？地域ごとに異なると思いますが、行政と医師会、薬剤師会、病院、クリニック、多職種なのか、それを明確にしていくと、理想なチームができるかと思います。